

[ 2019 年度 ]  
繊維製品品質管理士試験

[Ⅲ] 家庭用繊維製品の流通、消費と  
消費者問題に関する知識

◆注意◆

1. 問題は開始の合図があるまで開かないでください。
2. 開始とともに、受験番号と氏名を必ず解答用紙に記入してください。
3. 問題用紙に解答用紙が1枚はさみこんであります。解答用紙が入っていない場合、または2枚以上入っている場合は申し出てください。
4. 解答用紙は、書き損じても再交付しません。十分気をつけて解答してください。
5. 印刷が不鮮明な場合は申し出てください。ただし、問題に関する質問は一切受け付けません。
6. 解答を書き終えても、また、試験放棄しても試験が終わるまで退室できません。トイレに行きたくなった場合、あるいは気分が悪くなった場合は、手をあげて監督者に申し出てください。
7. 試験終了後は、指示があるまで着席のまま待機してください。
8. 試験中、顔写真と照合のため監督者が回ってきたときには顔をあげてください。
9. 試験会場内は禁煙です。

問1 次のⅠ～Ⅲの文中の( )の中に、最も適当なものを各々の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。

Ⅰ. マズローの欲求階層理論にあてはめると、日本では第2次世界大戦後の貧しい物不足の時代には、まず衣服に生理的欲求や安全欲求が求められた。その後、高度成長による( A )生産と流行を追った( B )年代の帰属欲求時代、DCブランドのものを身に着けたいといった( C )欲求、さらに高次の欲求へと続いていった。

[語群]

- |         |          |         |       |
|---------|----------|---------|-------|
| 1. 差別化  | 2. 1980  | 3. 自己実現 | 4. 大量 |
| 5. 1960 | 6. 多品種少量 |         |       |

Ⅱ. 消費者が商品を購入するときには、その商品が自分の欲求や期待を満たすかどうか、言い換えれば商品のもつ( D )が大きいかどうかを考え、この( D )に対して対価が十分に安いかどうかを考える。つまり( E )当たりの商品価値が( F )と購入の意志決定がなされる。しかし、現実の消費行動は上述のように経済的、合理的に実践される反面、多分に( G )的、非合理的な面が多い。

[語群]

- |       |        |        |       |
|-------|--------|--------|-------|
| 1. 品質 | 2. 価格  | 3. 大きい | 4. 理性 |
| 5. 効用 | 6. 小さい | 7. 情緒  | 8. 時間 |

Ⅲ. 消費者調査では、どのような種類の調査であっても、調査対象全体をくまなく調べるか、その部分だけを取り出して調べるかに分かれる。前者は( H )調査といい、後者を( I )調査という。特定の時期に、日本全域にわたって全世帯のすべてを調査する( J )調査は、( H )調査の代表例であるが、通常はこうした調査は少なく、( I )調査が実施される場合が多い。

[語群]

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 全量 | 2. 動機 | 3. 国勢 | 4. 家計 |
| 5. 標本 | 6. 全数 |       |       |

**問2 次のA～Hに最も関係が深いものを各々の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。**

- A. 留め置き法とも言われ、調査員が調査対象者を自宅または勤務先に訪問し、調査票を渡して回答記入を依頼し、後日再訪問して調査票を回収する方法  
(1. 託送調査法      2. 集合調査法      3. 配票調査法      4. 郵送調査法)
- B. 流行のシーズンに先駆けて購入し、口コミにより知人に影響を与えて商品の普及に貢献する。  
(1. イノベーター      2. オピニオンリーダー      3. ラガード      4. フォロアー)
- C. 母集団から標本を選び出すこと  
(1. ワーディング      2. サンプリング      3. エディティング  
4. コーディング)
- D. 所得から税金、社会保険料などを除いたもの  
(1. 可処分所得      2. 消費性向      3. 実質所得      4. 支出構成費)
- E. 調査項目とは別の、性別、年齢、職業、世帯員構成、居住地、所得などについての質問  
(1. チェックリスト      2. プリテスト      3. サンプル      4. フェースシート)
- F. 生活のゆとりを表す指標の一つとして使われてきたエンゲル係数は、約何%以下のときにゆとりある生活が送れると判断されてきたか。  
(1. 25%      2. 50%      3. 75%      4. 90%)
- G. 調査者の主観を全く入れず、母集団に含まれるそれぞれの単位の選び出される確率が等しくなるように工夫した抽出法  
(1. クォーター抽出法      2. 標本抽出法      3. 無作為抽出法      4. 有意抽出法)
- H. 消費者が新製品に接してから、その製品に慣れるまでの各時期に対応する消費者行動、特に購買行動をインスタントコーヒーについて研究し、3段階に分かれることを導いた人物  
(1. F. コトラー      2. R.G. ストール      3. J. グッドマン  
4. J.A. ハワード)

**問3 次の文中の [A] ~ [G] の後ろの ( ) 内に示す語句の中から、最も適当なものを選び、解答欄に数字で答えなさい。**

- I. 面接者と調査対象者が一対一で長時間かけて、情報を質的に深く掘り下げて捉えようとする観点で行われる面接調査を [A] (1. 自由面接法 2. 集団面接法 3. 深層面接法) という。
- II. 精度の高い調査とは、調査結果の [B] (1. ばらつき 2. 中央値 3. 相関) が小さいことをいう。
- III. 価格が上昇すると消費者は買い控え、価格が低下すると多くを購入するように消費者は行動する。価格変化が購買行動に与える影響の大きさ (感度) を需要の [C] (1. 価格振幅性 2. 価格弾力性 3. 価格上昇性) という。
- IV. 調査結果の集計を行う際、回収した調査票を点検し、分類、記号化し、[D] (1. 統計表 2. 工程表 3. 企画表) を作成する。
- V. あらかじめ用意された回答選択肢の中から、該当する回答選択肢を選ぶ回答形式を [E] (1. プリコード回答法 2. 自由回答法 3. 文字回答法) と呼ぶ。
- VI. 佐々木土師二は、消費者と商品を3軸の上に位置づけて特質を表示する [F] (1. RPB 2. RED 3. REC) スケールを提唱した。
- VII. M.T. コーブランドは商品と小売店の性格によって、商品を [G] (1. 2種類 2. 3種類 3. 4種類) に分類した。この分類を行うことで、購買行動にあった製品特性の在り方と、品揃えの方法について示唆した。

**問4 次のA~Fに最も関係が深いものを下記の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。**

- A. 国民生活センターが1981年に創刊し、商品テスト部が行なった比較テストの結果を公表していた雑誌名
- B. ADR (Alternative Dispute Resolution) と呼ばれる問題解決の呼称
- C. 「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」を消費者庁と共管する行政機関の名称
- D. 企業の社会的責任の在り方を示した国際規格「Guidance on social responsibility」の規格番号
- E. 1962年にアメリカのケネディ大統領が「消費者利益の保護に関する特別教書」の中で発表した消費者の権利の一つ

F. 消費者が賢い選択ができるよう、また公正で持続可能な消費者市民社会の構成員となれるようにするために、消費者教育を通して育まれるべき能力の一つ

[語 群]

- |              |                 |              |
|--------------|-----------------|--------------|
| 1. 司法手続き     | 2. 消費者教育を受ける権利  | 3. 肯定的思考力    |
| 4. ISO 26000 | 5. ISO 10001    | 6. ISO 10003 |
| 7. 「暮しの手帖」   | 8. 批判的思考力       | 9. 企画力       |
| 10. 救済を求める権利 | 11. 裁判外紛争処理     | 12. 環境省      |
| 13. 厚生労働省    | 14. 意見を聞いてもらう権利 | 15. 経済産業省    |
| 16. 「たしかな目」  | 17. 「月刊消費者」     |              |

**問5 次のA～Hに最も関係が深いものを各々の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。**

A. 実際に購入してみないと真の品質を知ることができず、売り手と買い手の間にある情報の非対称性が顕著な市場の名称

- (1. レモン市場                      2. ライム市場                      3. 不確定市場)

B. 1994年(平成6年)7月に制定された、商品の安全性を確保するための法律で、従来の業法による事前規制から事後規制への移行を本格化させた法律の名称

- (1. 消費者基本法                      2. 製造物責任法                      3. 消費生活用製品安全法)

C. 消費者と事業者との間の情報の質および量ならびに交渉力に格差があることを明示した2000年(平成12年)制定の法律の名称

- (1. 消費者契約法                      2. 消費者政策基本法                      3. 消費者保護法)

D. 消費者委員会および消費者庁の設置年

- (1. 1999年                      2. 2003年                      3. 2009年)

E. 繊維製品品質表示規程の1997年(平成9年)10月の大幅改正で、繊維製品品質表示承認番号が廃止され、付記が義務付けられたもの

- (1. 「製造者の氏名または名称」および「住所または電話番号」  
2. 「販売者の氏名または名称」および「住所または電話番号」  
3. 「表示者の氏名または名称」および「住所または電話番号」)

F. 英国マンチェスター郊外のロッチデールで働く労働者が設立した組合の名称

- (1. マンチェスター公正組合連合                      2. ロッチデール公正組合  
3. ロッチデール公正先駆者組合)

- G. 保健所などの家庭用品衛生監視員による行政立ち入りがあり、大手小売り店では現在でも年に多数抜き取り検査が行われる、繊維製品の規制対象の有害物質  
(1. ディルドリン                      2. ホルムアルデヒド                      3. 有機水銀化合物)
- H. 繊維製品の特定芳香族アミンの規制について、コスト面などを考慮して対応するために取得する文書  
(1. 全品検査証明書                      2. 不使用宣言書                      3. 染料鑑別証明書)

**問6 次のⅠ～Ⅳの文中の( )内に、最も適当なものを各々の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。**

**Ⅰ. 消費者基本法 第2条 基本理念 (以下は原文である)**

消費者の利益の擁護及び増進に関する総合的な施策の推進は、国民の消費生活における( A )が満たされ、その健全な生活環境が確保される中で、消費者の安全が確保され、商品及び役務について消費者の自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、< 中略 >並びに消費者に被害が生じた場合には適切かつ迅速に救済されることが( B )であることを尊重するとともに、消費者が自らの利益の擁護及び増進のため自主的かつ合理的に行動することができるよう消費者の自立を支援することを基本として行なわなければならない。

- A (1. 総合的な満足感                      2. 基本的な需要                      3. 十分な賃金水準)  
B (1. 国家の責任                      2. 消費者の義務                      3. 消費者の権利)

**Ⅱ. 行政が消費者のために何らかの規制を企業に対して行おうとする場合、行政がその権限を発動するために( C )が必要となる。**

- (1. 仲裁                      2. 法的根拠                      3. 相談)

**Ⅲ. 消費者基本法に基づき、内閣総理大臣を会長とし全閣僚および公正取引委員会委員長を委員とする( D )が設置され、消費者基本計画の案が作成される。**

- (1. 消費生活支援会議                      2. 消費者行政検討会議                      3. 消費者政策会議)

**Ⅳ. 1960年代になって、アメリカでは欠陥商品が市場に多く出回り、企業に対する消費者の信頼が揺らいだ。そうした中、弁護士ラルフ・ネーダーが自動車業界を告発するために公刊した( E )が大きく注目された。**

- (1. 『どんな車体でも車は危険』                      2. 『どんな車も危険』  
3. 『どんなスピードでも車は危険』)

V. 情報提供型消費者運動とは、市場に出回る商品を消費者が的確に選択することができるように、商品テスト結果をはじめとする消費者に公正で（ F ）情報を提供し、それによってより良い商品の生産を企業に促し、（ G ）商品が市場で淘汰されることを目的とする運動である。

F（1. 平等な                                      2. 科学的な                                      3. 販売促進的な）

G（1. 劣悪な                                      2. 画一的な                                      3. 低価格な）

VI. 日本の繊維製品のアミン規制において、特定芳香族アミン（ H ）が、アゾ染料が還元分解されて生成する芳香族アミンのうち発がん性を有するまたは発がん性が疑われると指摘されている。

（1. 24物質                                      2. 36物質                                      3. 48物質）

VII. 不当景品類及び不当表示防止法の2014年11月の改正では、不当表示の抑止力を高める方策として（ I ）制度が導入された。

（1. 社名公表                                      2. 刑事告発                                      3. 課徴金）

VIII. 誤った原産国表示をすると（ J ）違反である。

（1. 不当景品類及び不当表示防止法                      2. 家庭用品品質表示法  
3. 消費者保護法）

IX. 特定商取引法に定められたクーリング・オフができる期間は内容によって（ K ）日間あるいは20日間となっている。

（1. 6    2. 8    3. 10）

**問7 次のⅠ～Ⅱの文中の（        ）内に、最も適当なものを各々の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。**

I. 1973年の（ A ）により、量をベースに素材を提供していた（ B ）メーカーに代わり、アパレルメーカーが繊維産業のリーダーとして台頭し始めた。このことは、繊維産業の中で、軽工業の紡績、重工業の（ B ）といった高価になったエネルギーに頼る（ C ）である製造業から、モノを自ら作るのではなく、モノを動かす流通業へと産業の中心が移行したことを表している。

[語 群]

1. プラザ合意                                      2. 第一次産業                                      3. オイルショック  
4. 合織    5. 染色加工                                      6. 第二次産業  
7. 第三次産業                                      8. バブル崩壊

II. 日本において、アパレルの輸入には関税がかかるが、( D )からの輸入に関しては、特別に低い関税にしたり、無税にしたりする制度があり、これを( E )という。

[語 群]

- |          |         |          |
|----------|---------|----------|
| 1. 特恵関税  | 2. 先進国  | 3. 特別関税  |
| 4. 輸出超過国 | 5. 特優関税 | 6. 発展途上国 |

**問8 次のI～Ⅶの文中の( )内に、最も適当なものを各々の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。**

I. アパレルメーカーにとって、主たる販路の一つであった百貨店との間に存在する生産・販売のリスク負担を目的とした仕組みの一つは( A )である。

- (1. 委託販売制                      2. 買い取り制                      3. 歩合制)

II. 第二次世界大戦後の日本の経済復興の中で、繊維製品に関しては( B )による綿花援助が行われた。

- (1. 英国                                  2. 中国                                  3. 米国)

III. アウトレットストアのうち、メーカーが自社の売れ残り商品を販売するものを( C )アウトレットという。

- (1. ファクトリー                      2. アパレル                              3. リテール)

IV. ( D )とは、一流ブランド品を最初から大幅に値下げして売る小売業態である。

- (1. ロードサイドショップ      2. オフプライスストア  
3. ライフスタイルショップ)

V. 日本の繊維産業の( E )は、これまで繊維製品の品質向上の実現に寄与するとともに、人口の多い国々の労働力を吸収するという役割も果たしてきた。

- (1. 国産化                                  2. 多重構造                              3. 六次産業化)

VI. 委託生産のうち( F )は、生産企業が卸企業の商品企画と作業指示に基づき、素材、副資材の供給を受けて生産、納入する。

- (1. 職工                                      2. 属工                                      3. 純工)

VII. ( G )とは、調達・生産・販売および物流の活動を連動させながら、原材料・仕掛かり品・商品の流れを総合的に計画し、実施し、管理するための考え方や戦略のことである。

- (1. プロダクトパイプライン      2. ロジスティクス                      3. ピッキング)



VIII. 他国の工場に生産を委託して、そこから相手先に輸出する方式を（ H ）貿易という。

- （ 1. 二国間                              2. 三国間                              3. 多国間）

IX. 先方に資本や技術を供与し、高水準商品の生産を可能にした上で生産して輸入することを（ I ）という。

- （ 1. 開発輸入                              2. 開拓輸入                              3. 委託輸入）

X. 海外生産において、現地の資本（企業）との共同出資によって設立された会社を（ J ）という。

- （ 1. 合議会社                              2. 合弁会社                              3. 合意会社）

XI. 製糸企業とは、もともと（ K ）をつくるメーカーをいう。

- （ 1. 撚糸                                    2. 紡績糸                                    3. 生糸）

XII. 現在の世界の合成繊維の生産量の最も大きいものは、（ L ）である。

- （ 1. アクリル                              2. ナイロン                              3. ポリエステル）

**問9 次のA～Hの文で、①②の両方が正しい場合には『1』、①②のいずれかが間違っている場合には『2』、①②の両方が間違っている場合には『3』を解答欄に記入なさい。**

- A. ①我が国でミニスカートブームが起こったのは、1960年代であった。  
②総務省の家計調査における日本の衣料消費において、かつてシェアの低かった婦人服が紳士服と逆転するのは、1980年代以降であった。
- B. ①1950年代の我が国において、ウォッシュ・アンド・ウェアのキャッチフレーズで綿100%の製品が提供された。  
②世界の原料繊維の生産量（1985年から2014年まで）に関し、綿花の生産量は年々減少の一途を辿っている。
- C. ①織物卸商のうち、自社企画による生地を委託生産して卸販売する機能をもつ企業はテキスタイルコンバーターとよばれる。  
②企画・生産と小売りが直結している業態はSPA型とよばれる。
- D. ①アパレル小売産業は、アパレルを消費者に販売する小売企業群によって構成される。  
②ファッション小売産業にはアクセサリーなどの小売企業も含まれる。

- E. ①並行輸入方式とは、海外の有名ブランド品を輸入総代理店が複数のルートで輸入する方式である。
- ②アパレルの輸入において、買付け方式では、ブランドにこだわらない適品志向がとられている。
- F. ①上代とは卸価格の意味である。
- ②掛け率とは、商品を消費者に販売する際の小売価格に対する割引率である。
- G. ①明治維新以降の日本の近代化の中、絹は日本の重要な輸出品であった。
- ②第二次世界大戦後の日本の復興を支えたのは綿糸や綿織物であった。
- H. ①キャラクターブランドは、デザイナーをイメージ化して表現したブランドである。
- ②DCブランドは、日本国内において、1980年代に広く社会的なブームとなった。


**問10 次のⅠ～Ⅷの文中の( )内に、最も適当なものを各々の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。**

I. JIS L 0001 は繊維製品の ( A ) に関する表示記号及びその表示方法を定めた規格である。

- (1. 品質                                    2. 販売                                    3. 取扱い)

II. 2017年3月の繊維製品品質表示規程の改正により、組成表示をするとき、指定用語がない繊維、たとえばリヨセルは ( B ) のように表示することとなった。

- (1. 指定外繊維 (リヨセル)            2. 再生繊維 (リヨセル)  
3. 分類外繊維 (リヨセル))

III. JIS L 0001 で  の記号は ( C ) の意味である。

- (1. 水洗いはできない            2. 手洗いはできない            3. 家庭では洗濯できない)

IV. 洗剤に含まれる ( D ) によって生成りの衣料や淡色衣料は変色を生じる恐れがある。

- (1. 界面活性剤                            2. 蛍光増白剤                            3. 柔軟仕上げ剤)

V. 2017年3月に改正された繊維製品品質表示規程において、繊維製品で組成表示と取扱い表示記号の両方が必要な繊維製品は ( E ) である。

- (1. 靴下                                    2. 帽子                                    3. ハンカチ)

VI. 繊維製品品質表示規程の表示事項としては、繊維の組成、家庭洗濯等取扱い方法、および ( F ) がある。

- (1. はっ水性                            2. サイズ                                    3. 原産国)

VII. フィット性を必要とする婦人用コートのサイズは（ G ）表示であり、ヒップの他に（ H ）を表示する。

- G（1. 体型区分                      2. 単数                      3. 範囲）  
H（1. バストと着丈                2. バストと身長            3. 号数と胸囲）

VIII. 洗濯するとき、水分により強さが増す繊維には（ I ）がある。

- （1. 綿                                  2. 毛                                  3. ポリエステル）

**問 11 次のA～Iの文で、①②の両方が正しい場合には『1』、①②のいずれかが誤っている場合には『2』、①②の両方が誤っている場合には『3』を解答欄に記入しなさい。**

- A. ①パークロロエチレンは、ドライクリーニング溶剤として日本で最も普及している。  
②ウエットクリーニングでは石油系溶剤を用いている。
- B. ①リパーゼとは、たんぱく質分解酵素のことである。  
②洗剤にセルラーゼが配合されているものがある。
- C. ①石けんは合成洗剤の一種である。  
②界面活性剤は洗剤の主成分である。
- D. ①衣料品の原産国は、生地（織物、編物）が生産された国である。  
②ソックスの原産国は、原糸が生産された国である。
- E. ①ハロゲン含有物質は、焼却により有害物質を発生する懸念がある。  
②揮発性有機化合物には、大気汚染防止法の中で排出が規制されているものがある。
- F. ①石油系溶剤はパークロロエチレンに比べて揮発性が低い。  
②石油系溶剤によるドライクリーニング後には、溶剤残留による皮膚障害が発生する恐れがある。
- G. ①ドライクリーニングでは油性の汚れは落ちにくい。  
②石けんの水溶液の液性は中性である。
- H. ①商業洗濯におけるランドリーは水洗いである。  
②ランドリーはデリケートな衣類の洗濯に用いられる。
- I. ①組成表示において、絹を「SILK」と表示することができる。  
②組成表示において、カシミアを「毛」と表示することができる。

問 12 次のA～Gに最も関係が深いものを各々の語群の中から選び、解答欄に数字で答えなさい。

- A. 家庭用乾燥機について、電気とガスの場合の乾燥時間  
(1. 電気よりガスの方が短い      2. ほとんど変わらない  
3. ガスより電気の方が短い)
- B. 絹 100%と表示した場合の許容範囲  
(1. -1%                                      2. -3%                                      3. -5%)
- C. 多く含まれている場合に硬水とみなされる成分  
(1. カリウム                                      2. カルシウム                                      3. 炭酸)
- D. 底面温度が 200℃を限度としてアイロンがけができる繊維  
(1. ポリエステル                                      2. 綿                                      3. 毛)
- E. 洗剤に配合されて洗浄力を高める薬剤  
(1. スクアレン                                      2. ヘビーデューティ                                      3. ビルダー)
- F. 洗濯仕上げにおいて糊剤として使われるもの  
(1. ゼオライト      2. カルボキシメチルセルロース      3. 脂肪酸ナトリウム)
- G. 古着をばらし、ぞうきんや工場の油拭き用布として利用されるもの  
(1. ペレット                                      2. 反毛                                      3. ウェス)